

## やっと気づけた夫の気持ち

訪問看護ステーション芦花 小山律子

「死にたいの…、いつになったら死ねるのかしら…。今年もまた生きちゃった…。」進行難病のAさんからは、いつも悲観的な言動が聞かれています。でも、時には「買い物に行ったり、演劇を観に行きたい」そんな発言も聞かれていました。しかし、Aさんは夫にその思いを伝えようとはしませんでした。これ以上、迷惑をかけたくないと考えていたのです。

身体機能の低下は著しく、自分の体を思うようには動かせない状況で、食事とトイレ以外はベッドに寝ており、外出する機会は殆どできませんが、コミュニケーションは十分に取れるし、まだまだやれることはたくさんあります。私はAさんの気持ちを叶えたいと思うようになりました。

しかし、Aさんの気持ちを叶えてあげたいと焦る一方、夫と私の距離は広がっていききました。そこで、渡辺式アセスメントツールを使用した事例検討会をしました。看護師として、自分がどのようにAさんの思いを受けとめていけばいいのか、はじめはAさんの事ばかり考えていました。しかし、夫自身とても大変な状況である事に気づかされました。

私自身が夫に対して偏見を持ち、夫本来の姿を理解しようとしていなかった事に気がつく事ができたので、ここに報告いたします。